

第4回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

1. 開催日時：平成27年8月20日（木） 13：30～15：15
2. 場 所：千曲市河川事務所2階 大会議室
3. 出席者：平林座長、島野委員、豊田委員、笠原委員、北野委員、傳田委員、
中村委員、新家委員（倉田代理）、中山委員（本間代理）、
上平委員（岩下代理）、北島委員（小根澤代理）、青木委員、清水委員、
吉池委員、富岡委員、依田委員、堤委員

4. 議事概要（凡例：「◇」事務局からの連絡、「＊」質疑、「→」回答、「☆」意見

1) これまでの検討状況

＊：H26年度の施工箇所では生えてきている植生はオオブタクサか？

→その通りで、少し生えてきている。

2) 平成27年度の砂礫河原再生箇所

＊水路を掘ってつなげるたまりについては、水が入り易くなることによる止水性の環境へのインパクトが想定されるが、その影響はどう考えているのか？

→正と負の両面が考えられ、正としては冠水頻度が下がっていることで、冠水頻度を上げる事で本川に生息する魚類のゆりかご的な機能も期待できるかもしれない。全部に水を入れるわけではなく、1箇所だけであり、その効果について実験的に見ていく事を考えている。

＊カワラヨモギに対しては掘削箇所から外しているが、接している部分を掘削することでの影響はどう考えているのか？

→ある程度、離隔を持たせた掘削を考えているが、どの程度離すかについては相談させていただきながら設定していきたい。

＊H26年度施工の様に斜めに掘削は、湿地環境等様々な環境が出来てよかった。一方、H27年度施工は水平に掘削する予定であるが、同様な状態となるのか？

→本来はH26年度施工の様な形状としたかったが、過去の掘削実績から何回か洪水を受けると自然の力で斜めになる状況が確認されている事や、予算的な制約もありH27年度は水平とし、今後の自然の力に期待することで対応したいと考えている。

＊水路を掘ってたまりにつなげる場合、大きな洪水が来たときに、本来の流路に沿って右岸側に当然当たっていくような流れが出てくると予想されるが、その辺りも踏まえ、掘り方を検討しているのか？

→堤防に向けて水路を掘るのは治水上の懸念がある為、掘削する水路は川の中心に向けて掘るような格好にしている。また、計算上では、堤防付近で異常な洗掘が発生しないこ

とを確認している。

3)モニタリング計画

*5年の1回くらいの河川水辺の国勢調査で全体的な植生図も分かるので、全体としての砂礫河原の変動と再生箇所での変動を確認していくといった、全体の文脈の中でこの効果を見れる様に評価されると良いのではないかと?

→平成25年調査結果や過去のものを含めて全体を見ながら整理していきたい

*ドローンの調査をされるということであるが、ドローンが猛禽に落とされるということがある様な他、水鳥がどれだけドローンに対してびっくりすることもある。繁殖時期は避けて実施されている様であるが、そこら辺は気をつけた方が良い。

→そのように配慮する。

*魚類の調査結果は瀬と淵の合計したものと考えてよいか?

→その通りである。また、瀬と淵で個別の記録もある。

☆コクチバスが減った原因として、ひょっとしたら流速が速くなったとか、そういうことがあるかもしれない

*魚類調査において種類の割合は出ているが、バイオマスのな量自体の評価はどうしているか?

→河川水辺の国勢調査のやり方に準じる、なるべく倣って定量的にやれるところはやろうとやっているが、質量までは計測していない。

*湧水調査について水路を掘ってつなげる部分については水温と湧水、水質の調査を行うが、下でつながっているワンドについても計測が必要ではないか?

→今後検討する。

4)地域協働について

*自然再生事業を81%の方が知らないというのは、メディアの媒体への紹介が少ない事にも原因があるのではないかと?せっかくいいことしているのに伝わらないのはもったいない。

→今日も記者発表しているが新聞やテレビなどが来ていない様に、なかなか取り上げられて来なかった事も大きいと考えている。千曲川ではフェイスブックなども始めているが、今後、積極的に新再生事業の効果をアピールしていく方法を今後検討していきたい。

☆「地域経済の活性化」については、「昔は川とのつながりがあり、そこに地域社会が存在し、そこに幾つかの財の交換があって経済が成立していた。今はもうこの様な社会が存在せず、そこの関わりが薄く、しかもサービスの交換があまりなく経済というところまではいかないので、その前段階の地域社会の活性化がまず一番大事」とい意味が実態に近いと思う。

*千曲川少年団などの市民団体は、かなりのことをやっている所以市民団体がやっている

ことを河川事務所で知りながら、ギブ&テークの様な感じでやるのは良いのではないかと？
→市民団体へどういった活動をしているとか、ポイント、コツなどについてヒアリングしながら今後の方向を考えたい。

☆県や市町村をまず対象に水辺の環境保全に関する指導者育成の研修会を実施しており、今後、自治体から各地域の自治会へ拡げていく形で進めている。具体の取り組みではオオカワヂシャやアレチウリの外来種駆除研修の他、せせらぎサイエンスとして川の水生生物や水質調査の研修も実施しており各回 20~30 名程度が参加している。研修先については「何処でやったら良いか？実際に外来種がいるのか？」よく分からないため、場所とかの情報があると良いと感じている。

☆親水性水路等の整備に取り組んでおり、今年度整備完了予定であるホタル水路は地域と話しながら整備しており、リーダーが率先しながら地域による維持管理（カワノナ等を持ってきて育てたりするなど）でホタルが乱舞している状況にある。今後も町場の中でこの様な取り組みを考えており、小学校周辺での可能性など、地域と方々と場所の選定等を計画し、順次進めていきたいと考えている。

☆道と川の駅にて整備した水辺プラザを拠点に教育委員会の青少年育成会とNPOの信州千曲川少年団とで毎年川遊び体験教室を実施している（今年は雨で中止）。また、千曲川少年団独自の活動としてサケの放流、アユのつかみどりなども実施している。アレチウリ駆除は自治会として3年前から実施しているが千曲川までできておらず、国と一緒に何かのタイミングでできればと考えている。尚、千曲川そのものではないが、下塩尻では農業排水路を桜つつみ整備に合わせてホタル水路として整備後に自治会が熱心に取り組んだ結果、ホタルが乱舞して観光バスも来る状況となっている。

☆「さかきふれあい大学」の「さかキッズくらぶ里山・水辺編」という講座で坂城町の千曲川に生息する生物とか、里山に生息する鳥などを保護者と子どもたちで観察する会を5月16日、8月23日、9月13日で実施、予定している。また、つけば小屋の協力により川の楽校を実施しており、親子でコイとかナマズをとって観察する他、伝統的なつけば料理に親しんでもらっている。尚、参加した子ども達には千曲川の環境教育として、講座前には必ずゴミ拾いをやって貰っている。

☆千曲市の取り組みはこの資料の通りであるが、昆虫とか植物の観察も行っており、水辺や高原部の複数の自然環境観察を行っている。

☆ハリエンジュは管理が大変迷であるが、養蜂家にとって大変重要な蜜源樹であり、また地球環境の様な環境面からも貢献している樹木であるということも踏まえて今後また取り組んで欲しい

☆今回は千曲川中流域という会議であるが、できれば上流や下流の皆さんも一緒に集まり、環境問題とか課題がいっぱい残っているので、この様な会議をして欲しい。